

ウイメンズ ブックス

第70号

1999年

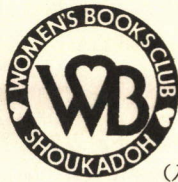
Women's Books

2月25日発行

女性の本の情報誌・ウイメンズブック友の会会報

ウイメンズブックストア

発行所 有限会社 松香堂書店
本社 〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804
土・日・祝日休み TEL 075-253-1860 FAX 253-1861
天満橋店 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号
ドーンセンター内



水曜定休・祝日代休あり

TEL・FAX 06-6910-6115 TEL 06-6910-8627

郵便振替口座 00900-5-309395

(入会金800円 年会費個人2,200円 団体及び海外会員3,000円)

このリストの書籍をご希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申し込み下さい。書籍代は送料共でお振り込みくださいますようお願い致します。ご注文の本の定価の合計額に、下の表の送料を合わせてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

2,000円まで 400円

2,001円～4,000円まで 500円

4,001円～10,000円まで 600円

10,001円以上 700円

電話・Fax・お手紙等でのご注文は、

天満橋店にお申しつけ下さい。

本誌からの無断転載・コピーはお断りいたします。

Homepage: <http://www.nacos.com/shokado/>

E-mail(ご注文専用)

shokado@d1.dion.ne.jp

最新刊情報

女性学…P1 仕事…P2 法律…P4 家族・結婚…P4
 ころ・癒し…P5 子育て…P5 からだ…P6
 セクシュアリティ…P6 女性史…P7 自伝・評伝…P8
 ルポ・エッセイ・文学…P8 高齢問題…P10 男性学…P11
 その他…P11 資料…P11 雑誌…P12 文庫になった本…P12



(ここに表示してある価格は、便宜上消費税5%を含んでいます)

〔女性学〕

『気になります、この「ことば」』

遠藤織枝 小学館 1998年12月 1155円

知らぬまにうっかり使って、人を傷つけることば。男子顔負け、男がすたる、障害児、ガイジン、外孫と内孫、らしさ、女房役……等々よく使われるが人を不快にさせる言葉をとりあげ、どこに問題があるのかを検証する。

『性・暴力・ネーション』

(フェミニズムの主張 4)

江原由美子編 勁草書房

1998年11月 3570円

女性兵士問題、国家と性暴力問題、女性性器手術問題は、最近の論争の焦点になっているが、どれも近代国民国家と暴力の問題として、重要な

意味をはらんでいる。上野千鶴子の女性兵士に対する考察、大越愛子の国家と性暴力等各々の争点の整理と考察がなされている。国民国家の枠組みとフェミニズム論議への足がかりとなる一冊。

『ナショナリズムと「慰安婦」問題』

日本の戦争責任資料センター

青木書店 1998年9月 2310円

「日本の戦争責任資料センター」の催したシンポジウムの記録。「慰安婦問題」解決のための日本人の「責任」と「主体」について真剣に論議されている。論者は上野千鶴子、吉見義明、高橋哲哉、金富子、西野瑠美子等。(第69号 16P参照)

『生涯学習と社会参加 -おとなが学ぶことの意味』

佐藤一子 東京大学出版会 1998年10月 2625円

社会教育、生涯学習のテキスト。おとなの学びとは何か、社会的にどのような意味をもつのか、生涯学習政策と公共性の問題、新しい学びのネットワークなど今後の社会教育に欠かせぬ視点をもり込んでいる。

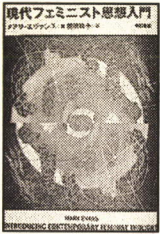
『組織とジェンダー』

高橋正泰 山口善昭 牛丸 元

同文館 1998年9月 2625円

企業のジェンダー調査、日、米、豪の比較調査から、日本の組織の中のジェンダーを再考する。日本より米、豪の方がジェンダーバイアス・ギャップが高いのは、

日本より敏感にジェンダーバイアスをとらえている証拠。ジェンダーに敏感なメンター（年上の助言者）の育成を説く。



『現代フェミニスト思想入門』

メアリ・エヴァンス 奥田暁子訳

明石書店 1998年12月 2625円

著者は、過去25年間のフェミニスト理論を学問として確立したという認識のもとに、争点を整理し、公平な視点で解説している。女性と国家、知、表現、身体、大学とフェミニズムなどテーマ毎に論じているが、今世紀フェミニストたちが築いてきた多岐にわたる論考をこの一冊にまとめた。

『ダダの性と身体』

—エルンスト・グロス・ヘーヒ』

香川 檀

発行 ブリッケ 発売 星雲社 1998年12月 2940円

ベルリンダダにいた男性作家、エルンストとプロス、女性作家ヘーヒの三人の作品を中心に、19世紀末からナチの時代の歴史と社会、ジェンダーという二つの異なった観点から性差がどの様に、作品に反映したかを比較している。数少ない女性作家ハンナ・ヘーヒに光をあてた労作。

『神話にみる女性のイニシエーション』

シルヴィア・B・ペレラ

杉岡津岐子 小坂和子 谷口節子訳

山中康裕監修 創元社 1998年11月 2625円

「父の娘」であった著者が、女性性をとりもどしていくプロセスを神話「イナンナの冥界下り」に重ねて、女性の通過儀礼（イニシエーション）を語る。ドラマチックな神話が、女性の生き方と深いところでつながっていることが興味深い。

『近代天皇制国家とジェンダー』

早川紀代 青木書店 1998年12月 3150円

日本が近代国家として歩み出した時から、男女関係の理念がどう創られ、その現実はどうであったのか。皇室典範、刑法・民法の成立過程と公娼制の再編過程を追求する。そして、新聞投書欄から現実の両性関係を見る。

『子宮の中のエイリアン』

エレイン・モーガン 望月弘子訳

どうぶつ社 1998年9月 2310円

妊娠から誕生育児期まで、発生学、人類学、社会学な

ど広い範囲から親子関係を語る。胎内に「異物」として入ってくるエイリアンが、やがて「寛容」されていく様子がていねいに書かれている。『女の由来』の著者の母子進化論。

『『青踏』を読む』

日本文学教会 新・フェミニズム批評の会

学芸書林 1998年11月 3300円

『青踏』には実に多くの論評がなされてきたが、この本では、『青踏』の文学面に光をあて考察した第1部、セクシャリティ、家族、母性、妊娠、出産などをめぐる言説を第2部、そして第3部にその表現戦略をとりあげている。多角的に緻密に論考、再評価をした力作。

『女が読むとき女が書くとき』

ジョシャナ・フェルマン 下河辺美知子訳

勁草書房 1998年12月 3675円

女はまだ女の物語を書いたことがない。女が自分の自伝を語ることの不可能性と可能性に迫る本。バルザック、フロイトの作品の女性の描かれ方をとらえ直し、ウルフ、ボーヴォアール、リッチの「失われた自伝」の可能性を探る。自伝的フェミニズム批評というジャンルを切り拓く。

【仕事】

『あなたにもできる！ パソコン在宅ワーク』

笠松ゆみ 日経事業出版社 1998年10月 1470円

パソコン在宅ワークの仕事の内容は？ 在宅ワークの進め方、開業するには？ 営業のヒントなど必要最小限のことは書かれている。一人でできる仕事の第一歩に。

『改正 男女雇用機会均等法』

労働基準法 育児・介護休業法 決定版』

労働基準調査会

労働基準調査会 1998年11月 1200円

改正された男女雇用機会均等法、労働基準法、育児・介護休業法を事業主によく理解して貰うため作られた。働く女性もよく知っておきたい改正法。政省令、指針、行政通達まで収め、解説とQ&Aをつけた。

『ゼミナール 共生・衡平・自立』

—21世紀の女の労働と社会システム』

関西女の労働問題研究会編

竹中恵美子／大脇雅子／丸本百合子

ドメス出版 1998年11月 2100円

21世紀、真の女の働き方が問われている。同一価値労働同一賃金、パート労働者をめぐる裁判、リプロダク

ティブ・ヘルス/ライツと健康に働く権利など、専門分野の第一人者3人が語る。女の労働をめぐる、問題点、変革への切り口が明確に示される。

『就職せずに自宅のパソコンでバリバリ仕事をする本
—3カ月でテレワーカーになる!—』

会田和子 小澤浩之
かんき出版 1999年1月 1470円

スキルアップの方法、効率的な営業方法など、文字入力や、データ入力、DTP、テーブルタイピング、翻訳、ホームページの制作といった仕事のノウハウ。

『女性のための起業・独立ガイド』

石渡 秋 実務教育出版 1998年11月 1470円
起業支援セミナーがあちこちで開かれている。そんなセミナーの中味を紹介。新しい働き方をするための基礎知識と実践マニュアル、NPO法の概略など、起業のための情報も付記。

『女性労働問題入門』

照井孝保 熊谷印刷出版部 1998年9月 1500円
労働問題に関する社会思想の紹介、女性解放の主な思想の紹介、そして雇用をめぐる女性労働問題、賃金問題、母性保護、家事労働に至るまで、女性労働に関して網羅的に述べた入門書。

『男女雇用機会均等法と人事管理・人材活用』

安枝英紳 経済法令研究会 1998年11月 1890円
人事、研修担当者、管理職に改正雇用均等法を解りやすく解説。改正のポイント、規制の解消と対応、特例と適用除外についてなど管理職に限らず知っておきたい。

『にこにこブックス㊟作家になるパソコン術』

松本侑子
筑摩書房 1998年12月 1470円

『巨食症の明けない夜明け』ですばる文学賞を受賞した翌年からパソコンを始めた著者が、取材、資料収集、原稿送り、辞書替りにするなど、パソコン、インターネットを活用する法を公開。作家デビューのための文学賞一覧付き。

『女性の職業のすべて 資格と特技シリーズ』

99年最新版』

女性の職業研究会編
啓明書房 1998年9月 1470円

就職のための資格のアドバイス。今人気の仕事とこれから有望な仕事、収入、注目度、将来性など最新情報。

『なりたい! 介護福祉士・社会福祉士』

大栄出版編集部 大栄出版 1998年6月 1050円
介護福祉士・社会福祉士になるためのノウハウ。

『プロフェッショナルライブラリー14』

なりたい! 編集者』

大栄出版編集部 大栄出版 1998年10月 1260円
編集者になるには最低でもこれくらいは知っておきたい情報。出版業界のこと。編集者の仕事の内幕など経験者の話もまじえて紹介。

『働くママの㊟便利ガイド』

これで安心! 仕事と子育て』

日経事業出版社

日経事業出版社 1998年10月 1365円
保育園選び、仕事対策、働くママを支える法律や会社の制度、地域の制度に強くなろうと呼びかける。駅型保育所、病児保育所一覧表付き。

『フツの女性が選挙で勝つ法』

女性議員をふやす会編

童話館出版 1998年12月 1365円

地盤、看板、カバンがなくても勝つ方法を伝授。全国の地方議員が語る必勝法、わかりやすい公職選挙法、選挙でやっていいこといけないことなど。この本を読んで迷わず行動を起こそう。

『編集稼業の女たち』

本の雑誌編集部編 本の雑誌社 1998年9月 1890円
おなじみの雑誌や本の編集現場には、女性も活躍している。そんな女性たちの本音をパッチリ並べた。彼女たちは一様に仕事を愛し、働くことを楽しんでいるようだ。

『労働ビッグバンと女の仕事・賃金』

中野麻美 森ます美 木下武男
青木書店 1998年10月 2100円

住友化学の性差別に対する闘い、昭和シェル石油の賃金差別裁判、商工中金の男女差別待遇裁判など実際に闘った人の証言を聞いていると、日本企業の信じられないような男女差別意識が浮かび上る。

『ワーキング・マザーのための子育てアドバイス』

星一郎 ごま書房 1998年11月 1260円

つい子どもにストレスをぶっつけたくなる働くマザーに、いろいろな人に面倒をみてもらうことは、子どもにいいことなんだから、「お母さんも働きやすいネットワークを作ろうよ」とすすめる。ワーキングマザーが楽しく働くには。

〔法 律〕

『国際協力と日本国憲法 21世紀への日本の選択』

上智大学社会正義研究所
国際基督教大学社会科学研究所
現代人文社／発売 大学図書 1998年11月 1785円
同名のシンポジウムの記録。歴史的な変容が起っている国際社会の中、日本は国際協力を平和憲法のもとでいかにすすめるのか。「国際協力と地方自治」「国際協力と戦後補償の諸問題」など論議された今日的な課題。

『職場におけるセクシュアルハラスメント

防止マニュアル』

労働省女性局
勤21世紀職業財団 1998年6月 1680円
職場におけるセクシュアルハラスメントを防止するための事業主の配慮義務の具体的内容の指針が出された。改正雇用機会均等法や指針を詳しく解説、セクハラ防止の積極的取組みのためのマニュアル。

『女性の権利 ハンドブック 女性差別撤廃条約』

国際女性の地位協会 赤松良子監修
岩波ジュニア新書 1999年1月 735円
1979年に国際連合総会で採択された女性差別撤廃条約は1985年漸く日本も批准した。その条約を丁寧に解りやすく紹介。女性の歴史にも触れながら、女性差別を失くすことの大切さを説いている。中学、高校のみならず、あらゆる講座のテキストに使ってほしい。

『戦時・性暴力をどう裁くか

国連マクドゥーガル報告全訳』

編訳 バウネットジャパン
解説 松井やより 前田 朗
凱風社 1998年12月 1260円
マクドゥーガル報告の全訳を収録。専門的法律論議の説得力と合せて、被害女性の痛みへの深い理解。国際人道法と「女性の人權」の視点に立って書かれたこの国連文書は、世界の女性たちの性暴力の闘いに強力な拠り所となる。日本の慰安婦問題にも、日本政府の法的責任を明らかにし、その責任者の処罰と被害女性への国家補償を勧告している。

『討論 セクシュアル・ハラスメント』

今井美智子 内藤早苗 苗村博子 養父知美
学際図書出版 1998年9月 1680円
セクハラに対して労働者のガイドラインが出たのは'98年3月、'99年4月からは事業所に義務づけられる。何がセクハラなのか被害にあった場合の対処のしかた、訴訟や判例にみる実例、会社のとるべき対策など具体

的にあげている。

『離婚の法律紛争〔新版〕

―再出発のためのアドバイス』

泉 久雄 有斐閣 1998年11月 1890円
離婚で生じるトラブルのいろいろに、最新の判例をふまえて、研究者、弁護士がケースごとに解説していく。

〔家族・結婚〕

『あたらしい旅立へ 離婚とそれから』

有吉春代 明日香出版 1998年11月 1365円
近頃、離婚の手引書が沢山出版されるようになった。この本もその一つ。損をしない財産分与、慰謝料の取り方、離婚後の生活などを図解をつけて説明する。

『愛されなくていいんだよ

―女子高校生のための親離れの本』

森 絹江 ユック舎 1998年12月 1575円
家族の密着度が高まって、若い女性たちの迷いとストレスが深まったという現在。親もひとりの人間であること、孤独が自分を育てることなど著者の体験を通して若い人に生き方を考えさせる。

『家族・暴力・虐待の構図』

日本弁護士連合会／両性の平等に関する委員会／
子供の権利委員会
読売新聞社 1998年9月 2100円
「家族と暴力について」齊藤学、「ファミリー・バイオレンスと家族支援サービス」鈴木隆文、「女性の地位と暴力」角田由紀子、「障害者と暴力」相川裕、など各専門家による論考と弁護士への直言も。

『これからの社会福祉③ 家族・児童福祉』

庄司洋子 松原康雄 山縣文治
有斐閣 1998年11月 2520円
児童福祉法改正と家族・児童福祉の課題から援助技術と方法に至るまで現状を総合的に捉え、理念・制度を解説する。

『シリーズ比較家族第Ⅱ期Ⅰ 扶養と相続』

奥山恭子 田中真砂子 義江明子
比較家族史学会監修
早稲田大学出版部 1998年10月 1990円
近世の歴史までは、親の扶養は家の責任とされていなかったこと、家以外の地域共同体が、効果的に扶養や介護にかかわっていたことを、歴史学の論考から明らかにする。ベトナム、韓国、フランスの例も引き、現代の扶養と相続のあり方を展望する。

『シリーズ比較家族Ⅱ期Ⅱ 父親と家族
—父性を問う』

比較家族史学会監修 黒柳晴夫・山本正和・若尾祐司
早稲田大学出版部 1998年11月 3990円
初期人類の父親像、平安朝の王権の父子秩序の成立と
変容、18、19世紀のイギリスの父親像、現代父親役割
の比較社会的検討、父親像の歴史と異文化の父親の
文化比較など、父親をテーマに文化人類学、歴史学、
社会学等を結ぼうという試み。

『溶ける家族と子どもたち』

小川信夫 玉川大学出版部 1998年12月 2100円
子どもの荒れ、親になれない親、漂流する性、食卓の
消えた家と無数の事例を引きつつ、溶ける家族と子
どもたちのことを語る。著者は、「体を通しての確かな
記憶」としての「役割」に着目。家族の基本がそこ
にあると主張するが。

『母と娘』

キャロル・セイライン シャロン・ウォールムス写真
メディアファクトリー 1998年12月 1680円
29組の母と娘にインタビュー。本当の母と娘の姿を引
き出した。娘を最も愛し、娘を最も傷つける母とい
う存在、娘の自立までの葛藤、母と娘の関係は10人10
色のドラマだ。

『離婚しなくても大丈夫』

レディース・ホーム・ジャーナル
さとうよしこ訳 現代書館 1998年11月 2310円
アメリカの女性誌『レディース・ホーム・ジャーナル』
の人気コラム、マリッジ・カウンセリングコーナーの
ダイジェスト。記者のインタビューに答える妻と夫の
それぞれの言い分。何とか夫婦をやっているとする
「カップルストーリー」が展開される。だけど、そん
なに2人でいないとだめなのかなァ。

〔こころ・癒し〕

『愛しすぎる女たち 癒しの言葉』

ロビン・ノーウッド 吉田洋子訳
読売新聞社 1998年12月 1890円
日めくり風に癒しの言葉が365回く
りかえされる。愛しすぎる女たちの
依存からの脱出は、こんなにエンド
レスなのだろうか。「愛しすぎる女
たち」のシリーズが、3冊目から、
ハウツー的になっていったのがちょっ
と残念。



『おぼれる人生相談』

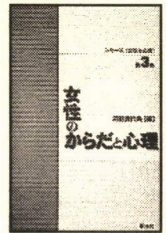
松浦理英子 角川書店 1998年12月 1260円
人生相談の連載のまとめ。若い人たちの生まれじめな相
談とまともすぎる回答。一味違う回答を期待したが、
少し自己規制のしすぎじゃないかな。

『拒食症と過食症 —困惑するアリスたち』

山登敬之 講談社現代新書 1998年8月 693円
精神科医である著者が、拒食、過食症とはどんな病気
か、どのようにして始まるのか、治療はどのようにさ
れるのか、治るまで等を説明。そしてなぜこの様な病
気が起こるのかその背景を探っていく。成熟拒否説に
疑問を投げかけている。同感だ。

『女性のからだと心理』

シリーズ〈女性と心理〉第3巻』
野野貴代美 新水社
1999年1月 1890円
私たちはからだをとおして、心があ
らわれてくることに、よく気づかさ
れる。にもかかわらず、元気な時は
こころにもからだにも耳をかたむけ
ない。著者たちが正直にみつめる自らのからだここ
ろについての語り気が気持ちいい。ことばとは、からだ
を通して語られるのだということがよくわかる。



『第四の生き方』

—「自分」を生かすアサーティブネス』
アン・ディクソン 竹沢昌子 小野あかね監訳
拓殖書房新社 1998年10月 1890円
「アサーティブネス」という言葉は日本でも大分知ら
れるようになってきた。自分の気持ちを素直に表現し
ながら相手も大切にするのは難しい。これはアサーティ
ブネスの理論書であると同時に実践の書である。

〔子育て〕

『親と子の心育て 7つのルール』

—幸せに気づくメンタル・ガイド』
ディーパック・チョプラ
南美希子監訳 ユール洋子訳
大和書房 1998年11月 1575円
本当の子育ては、心育てだという。親として子どもに
教えなければならない7つのルールをやさしく説く。
それは、自分に教えなければならないことなんだ。

『子どもたちはなぜ暴力に走るのか』

芹沢俊介 岩波書店 1998年10月 1680円
今、子どもたちのいじめや暴力は「普通」の子が標的

となり、加害者となる。なぜ「普通」の子どもたちの内面がこれほどにまで金と暴力に深く侵されてしまったのかを問う。この10年の子ども論を一冊にまとめた。

『地球へようこそ』

—おっぱいからオゾン層まで赤ちゃんを守る50の方法』
グループなごん 絵) 杉田比呂美
ブロンズ新社 1998年10月 1575円
便利でお手軽な子育てグッズが溢れているいま、子どもに安全でヘルシーなものだけ与えるのは難しい。エコロジーを考えながら赤ちゃんを上手に守る子育て指南書。

『東京ワーキングマザーお助けガイド』

ぐるうぶ・パンプス
丸善メイツ 1998年10月 1533円
東京とその周辺の保育園を全部紹介。便利な保育のいろいろ、ベビーシッター、産婦人科マップ、頼れる助産院、宅配の店、電話相談まで、助かる情報を掲載。

『ベビーシッターが育む21世紀』

—ファミリー・サポートへの道』
中館慈子 悠飛社 1998年12月 1050円
ベビーシッター業はまだ日本には珍しい。ベビーシッターを業務とした会社を設立した女性のそれまでと、起業してからのこと。順調に業績をのばして、5年で年商1億になったというのだから立派。「第三者だからできること」は子育てにも介護にも当てはまる。

『21世紀ブックレット③ わが子に性が語れますか？』

—子育てのなかの〈性と生〉』
高柳美知子 三友社出版 1998年9月 630円
子どもに聞かれたら「逃げない」「怒らない」「うそをつかない」そしてリラックスして教えらるる親になろうと呼びかける。人生のうちで大切な〈性〉をきちっと教えらるる大人になろう。

〔からだ〕

『女のココロとカラダシリーズ いつ生むか』

長田渚左
ネスコ/発売 文藝春秋 1998年11月 1575円
働く女性の最大の悩みは、出産できる年齢の限界だという。9人の女性の人生を通して明らかになる女性の産む産まないの選択。会社の対応、周囲の反応、自分自身の選択と女性にだけふりかかるこの大なる悩み。産んだ人も産まない人も人生は実に多彩だ。

『いまどきの出産』

—赤ちゃんも仕事も大切なあなたへ』
ぶん) 太田ルカ え) 宮井シエナ
PHP研究所 1998年10月 1260円
働きながら出産するには、いろんなハードルがある。でも、仕事も赤ちゃんも大切なのはあたりまえ。気持ちの持ち方、職場でのイジワルの抗し方、着てゆくもの、今どきの賢い女の道を、体験OLが語ってくれる。



『女のからだ わたしたち自身』

森冬美&からだのおしゃべり会
毎日新聞社 1998年12月 1001円
からだにやさしい避妊の方法、中絶のガイダンス、HIVのこと、ピルのこと、IVDのこと……。身体にいい選択をしたいあなたに。「低用量ピル」への疑問を提起。

『女の医学』

池下育子 アドア出版 1998年10月 2100円
思春期の医学、独身女性の医学、結婚の医学、避妊の医学、妊娠の医学、出産・分娩の医学、不妊の医学、更年期・老年期の医学、女性に多い症状病気に分け、女性の生涯のからだに関する情報を網羅した本。

『女のからだ、自分で改善！』

—生理痛から婦人病まで』
岡島瑞徳 筑摩書房 1998年12月 1365円
生理痛や冷え症、更年期などの不快を整体（調息整体法）で体の根本から変えることによって改善する。その簡単な方法を伝授。

〔セクシュアリティ〕

『男でも女でもない性』

橋本秀雄 青弓社 1998年10月 1680円
男であること、女であることの性自認のむづかしさ、「男でもなく女でもない性」インターセックス（半陰陽）の、もっとむづかしさを思う。著者は自分史を通して、性の決定権をもつまでのプロセスを正直に語る。

『性教育Q&A100』

実践のためのワンポイント・アドバイス（小学校編）
北沢杏子監修
アーニ出版性教育カリキュラム研究会編
アーニ出版 1998年10月 1365円
人権教育、両性の平等をめざす性教育の必要性をふまえ、性教育を担当する教員に向けて、書かれたハンドブック。なぜ性教育が必要か、いつ何を教えるか、エ

イズ教育など。性教育の教材作りのポイントは実践にすぐ役立つだろう。

『セックスは自然な行為か?』

レオノア・ティーファ

河野貴代美 渡辺ひろみ訳

新水社 1998年12月 2940円

女性のセクシュアリティにおける最も大きな影響力は文化的規範。それが女性によって内面化され、制度によって強制され、女性の人生における重要な他者によって実践されるという。「セックスは自然なものである」ということが、幻想であることを論証していく興味深い論文集である。セクソロジー〈業界〉にあるバイアスを鋭く衝いている。

『はちみつバイブレーション』

北原みのり 河出書房新社 1998年11月 1260円

著者は性教育を研究し、性産業の現場に新しい視線、女性からの提案を積極的に行っている。ジェンダー・フリーな性表現を求めて、これ程率直に誰にも解りやすい言葉で語りかけた本は今までになかった。「20代フェミニストの華やかな「誕生」。

〔女性史〕

『女の歴史Ⅴ -20世紀2』

F・テボー編 G・デュビィ M・ペロー監修

杉村和子 志賀亮一監訳

藤原書店 1998年11月 7140円

20世紀の女性たちを様々な角度から捉えた。母性、家族、女性解放、フェミニズム、生殖と生命、そして残された課題とは。

『行動する女たちが拓いた道』

行動する会記録集編集委員会

未来社 1999年1月 2940円

CM「私作る人、僕食べる人」に異議申立てを行って名をはせた“行動する会”のこれまでを座談会、年表報告などで綴る記録集。

常に性差別社会の変革を目指して先頭をきって闘った女たちの活動

が道を拓いた。これからへ繋ぐ若い女性に是非読んでほしい。

『広告のヒロインたち』

島森路子 岩波新書 1998年12月 672円

「広告批評」の編集長である著者が、戦後の広告が表現してきた女たちを、時代のかかわりの中で読み解い

ていく。50年前の原節子のポスターから、広末涼子まで、40人以上の女性の姿を追う。

『ジェンダーの西洋史』

著者代表 井上洋子

法律文化社 1998年12月 2415円

フェミニズム運動が始まった18世紀フランス革命期からのフランス女性の運動と抑圧の歴史、イギリスのメアリ・ウルストンクラフトからグリーンナム・コモンまで、そしてアメリカ、

ドイツ、ロシアと各々の女性史を記述。このような切り口のテキストが出たことは嬉しい限り。年表始め付録資料もこれから学ぶ人に便利。



『なは・女のあしあと 那覇女性史(近代編)』

那覇市総務部女性室

那覇女性史編集委員会編

ドメス出版 1998年9月 3675円

1879年の廃藩置県前後から、1945年の敗戦前後まで、那覇を中心とした女性の歩みをたどった労作。家庭、社会の女たち、働く女たち、海外移民・教育、風俗改良などの項も貴重な女性史だがとりわけ「戦争と女たち」には、心の痛むものがある。

『日本中世の社会と女性』

田端泰子 吉川弘文館 1998年12月 8190円

室町戦国期の村落史・政治史をベースに女性史研究としての成果をあげた論文集。「御台の執政と関所問題」「鎌倉期の武士の女房」「室町幕府の女房」「中世前期における女性の財産権」などジェンダーの視点で中世社会を読みとく。

『平安朝 女性のライフサイクル』

服藤早苗 吉川弘文館 1998年12月 1785円

10世紀から11世紀にかけての平安王朝を生きた女性たちの一生を描く。生い立ちから結婚、子育てそして家政をとりしきり、時には政治も動かす高貴な女性たちの姿はたくましい。

『歴史に消えた女たちの黙示録』

山田盟子 光人社刊 1998年11月 1995円

著者は正史にない女たちの歴史を書き続ける。戦争のあるところ必ずレイプあり。「戦中、戦後慰安婦」をテーマに国内、アジア、北米にまで取材の足を運ぶ。ちょっと文体は古いがその時代を生きる人の文章は得難い。

〔自伝・評伝〕

『江戸の女俳諧師「奥の細道」を行く—諸九尼の生涯—』

金森敦子 晶文社 1998年8月 1995円
 筑後の庄屋の嫁だった女性が馳け落ちて女俳諧師となり、京都から九州へ、また東海道から奥州まで俳諧の旅をする。遺された旅日記、手紙、句をもとに諸九尼の波瀾の人生と江戸時代を描く評伝。

『尾崎翠』

群ようこ 文藝春秋 1998年12月 714円
 尾崎翠の「第七官界彷徨」を読んだ衝撃から、作者の人生をたどる伝記。才能を持ちながら脚光を浴びることのなかった、もの書きの先達への尊敬と共感を込めて綴る。

『鬼に勝つ—「わたし」を自由に生きるために』

金住典子 三一書房 1998年11月 1890円
 対等なまなざしや人間関係が阻まれる社会を「鬼」と呼び、その「鬼に勝つ」ために模索を続け、真剣に生きてきた著者の半生記。これは後に続く女性たちへの素晴らしい贈り物だ。(18P書評参照)

『女検事ほど面白い仕事はない』

田島優子 講談社 1998年11月 1575円
 検事の生活と仕事のことは余り知られない。捜査が面白くてたまらない、だからこの仕事が好きという女性検事の体験記。女検事は戦力にあらざうという差別の中、女性では初めて法務大臣官房入りを果たした。

『カイエ 1』

シモース・ヴェーユ 山崎庸一郎 原田佳彦訳
 みすず書房 1998年11月 7980円
 カイエ(雑記帳)には、若き日のヴェーユの断言・定言と、かすかな心情の吐露が記されている。哲学と数学と労働と詩と。ヴェーユが死ぬまで書き続けたというカイエの詳訳に添えられた細かな注が参考になる。

『百合子めぐり』

中村智子 未来社 1998年12月 2100円
 著者が著した『宮本百合子』が出来るまでの思い出、百合子の周辺をめぐるエピソード、著作の起した波紋、宮本顕治と共産党への疑問や批判を率直に述べている。「人間・宮本百合子」の全体像をありのままに伝えたいという著者の思いにうたれる。

『私が歩いた道』

大村はま 筑摩書房 1998年8月 1680円
 戦後の教科書も、鉛筆もない時代、新聞の切れはしから学ばせた「単元学習」と呼ばれる授業を生み出す。ユニークな教育者の生い立ちと出会いを綴った自伝。

〔ルポ・エッセイ・文学〕

『あなたはもう幻想の女しか抱けない』

速水由紀子 筑摩書房 1998年12月 1785円
 恵まれた生活を送りながら売春に走るOL、援助交際にはまる少女、急増する離婚カップル、今を生きる男女をリポートして会社幻想、規格幻想、聖母・聖少女幻想といった「幻想」の「崩壊」をみる。この社会の幻想に頼って生きてきた男たちに幻想から目覚めて個人へと立ち戻るチャンスだと説く。

『あほらし屋の鐘が鳴る』

斉藤美奈子 朝日新聞社 1999年2月 1575円
 コラムとは、こうありがたいもの。実にセンスがいい。読んで納得、溜飲が下がる。「女性誌な人たち」のくだりは、的を射て、ユーモラスでシンラツ。評論家ぶる人々への「あほらし屋の鐘」の音がカーンと鳴りひびく痛快な一冊。

『居場所考—家族のゆくえ』

水田宗子 フェミックス
 1998年12月 1800円
 〈居場所〉をキーワードに文学や映像の中の家族を読み解く。著者の博識と鋭い感性が光るエッセイ集。一つひとつのエッセイが、大変愉しめる卓越したフェミニズム批評だ。



『想いあふれて』

吉岡しげ美 毎日新聞社 1998年10月 1680円
 女性詩人の詩に曲をつけコンサート活動を続ける著者のエッセイ。与謝野晶子、金子みすゞ、岡本かの子の詩を歌い、誰もいないジャンルで、ひとりぼっちの闘いに疲れた時も勇気を与えてくれたのは、女たちの詩だったと語る。

『女たちの時間』

利根川真紀編訳 平凡社 1998年12月 1260円
 20世紀半ば女性同士の交流を描く小説は欠落していた。今でこそ教えあげられるほどの作家が登場してきたけれども。そういう女性作家たちの短編を集めたアンソロジー。ヴァージニア・ウルフ、ジェイン・ボウルズ、イサフ・ディーネセンなどの短編翻訳集。

『女の四期—娘・妻・母そして女とは』

荻野アツナほか フォー・ユー

発売日本実業出版社 1998年10月 1680円

娘について、女について、妻について、母について、そして女として、に分けて、各々、女性の視点で書かれた「女」を、本音で検証。ここにはいま息づいている「女」が描かれている。男性も読んで勉強しては。

『考える日々—One Size Fits All』

池田晶子 毎日新聞社 1998年12月 1680円

「倫理」はどこに存在するのか」「延々と生き延びて、どうしろと言うのだ」「なぜ人は「入門書」を読みながら」「情報化をきわめたところで」等々著者が週刊誌に連載したエッセイ集。今のヘンになってしまった人々（社会）への〔まともな哲学者〕の一喝。面白い！

『恋する男たち』

篠田節子他 朝日新聞社 1999年2月 1785円

6人のいま人気の女性作家が競作した恋の物語。恋といっても女性の描く恋は…なかなかアジがある。

『ゴースト・カントリー』

サラ・パレツキー 山本やよい訳

早川書房 1998年8月 2100円

パレツキーの4年ぶりの最新作。V・I・ウォーショースキーは登場しないがやはり読み進むうちに勇気と活力を与えてくれる。アル中の元オペラ歌手、傷つき家出したティーンエージャー、青年医師、女性弁護士、それに不思議な力をもつホームレスなど様々な境遇の人たちが出会う大都会の光と影。パレツキーファンには見逃せない一冊。

『ジェイン・エアは幸せになれるか？』

名作小説のさらなる謎』

ジョン・サザーランド

青山誠子 朝日千尺 山口弘恵共訳

みすず書房 1999年1月 3360円

表題になっている篇の他、ホーソーン『緋文字』ヴァージニア・ウルフの『ダロウェイ夫人』エミリー・ブロンテ『嵐が丘』など33篇の作品の謎の指摘と探索がなされている。専門家としての豊かな知識と鋭利な分析は、各篇とも推理小説を読むようなスリルと面白さがある。

『時代と女と樋口一葉』

—漱石も鷗外も描けなかった明治』

菅聡子 NHKライブラリー 1999年1月 1019円

明治期の女たちの姿をリアルに描きながら、女性作家ゆえの好奇心視線をあびることも、しっかり受け止め

た一葉。数々の名作に込められた意味、一葉が問うつけたものは何だったのか。「ものを書く女」としての孤独な闘いが、時代の矛盾や制度の抑圧を描き出し得たという。

『女性作家シリーズ13 三浦綾子 宮尾登美子』

角川書店 1998年11月 2730円

『タイからのたより』

—スナック「ママ」殺害事件のその後』

女性の人権カマラード編著

パンドラ発売現代書館 1998年12月 1785円

貧困から日本への出稼ぎへ。そこで待ち受けていたものは？ スナック「ママ」殺害事件で、拘置所に。誰も故郷を離れて出稼ぎなんかしてはいけないという彼女の声は悲痛だ。加藤シヅエ賞受賞。

『辻元清美の永田町航海記』

辻元清美 第三書館 1998年9月 1575円

辻元清美が衆議院議員になって満2年、社民党はたった15人になった。永田町のワケのわからぬ人達、国会というところを素人(?)の議員の目でレポート。NPO法案を通すのに頑張ったり、戸惑いも多い。こういう純粋な人がもっと政治家になってほしいものだ。

『鶴見和子曼荼羅Ⅶ 華の巻』

鶴見和子 岡部伊都子解説

藤原書店 1998年11月

おいたちや知人、友人のこと、趣味のことなどを収録。

『ニューヨークで見つけた！』

新しい私 35歳からの留学ストーリー』

久和ひとみ ダイアモンド社 1998年9月 1470円

12年間のテレビキャスターと8年間の結婚を捨ててニューヨークへ。35歳のゼロからの出発とニューヨークでの2年間の留学生生活体験記。学ぶこと、暮らすこと、人とつきあうことの率直さが気持ちいい。骨太な文明論にもなっている。

『樋口一葉來簡集』

野口碩 筑摩書房 1998年10月 9240円

半井桃水、泉鏡花、齊藤緑雨らをはじめ和歌の師、友達、出版界の人々、親戚縁者に至るまで、一葉が受け取った手紙とその筆者の紹介、往復書簡の対照一覧など一葉研究はここまでできたかという資料。

『星さえもひとり輝く』

マヤ・アンジェロウ 香咲弥須子訳
立風書房 1998年6月 1680円

「アメリカの黒い女」マヤ・アンジェロウが全米で受け入れられる理由がよくわかる。限りなくオープン、逃げない、何があっても心を閉じなかった彼女の声が聞こえてくるような詩。堂々としたやさしさと、自分を失わない女が、そこにいるのがよく見える。

『程よい距離を保つための秘訣』

—インタビュー「理想の男性」—

榊原富士子編著 メトロポリタン出版 発売星雲社
1998年11月 1365円

女と男の距離のとり方について女性16人にインタビュー。目下のところパートナーとなっている男性を語る。ただインタビューが入口のところで終わっていて、ハウツーに聞こえるところがもう一つ。

『本たちを解く—小説・評論・エッセイのたのしみ』

阿部浪子 はる書房 発売ながらみ書房
1998年10月 1890円

売れる本より、読んでほしい本をひもとく。信濃毎日で10年間掲載された千字書評。著者の好みの本が並んでいる。小説家についてのエッセイの読みがとりわけ面白い。

『三日月の船』

中山千夏 一葉社
1998年12月 2100円

この10年程に雑誌や新聞に書いたエッセイのうち、生命、教育、生活にかかわるものがまとめられている。昔なつかしい「草のあそび」から、死刑廃止論まで、著者の人柄そのままに気持のよいエッセイ集だ。(12P参照)



『三日たったらやめられない』

篠田節子 幻冬舎 1998年11月 1575円
篠田節子の初のエッセイ集。結構楽しく読める。

『森のイスキア』で話したこと』

佐藤初女 宮迫千鶴 創元社 1999年1月 1890円
岩木山の麓「森のイスキア」で、「生きているおいしいもの」を食べながら談論風発の対談集。母性と女性性、女と男、暮らし、死と看取りについて、女性原理的文化の再生、復元を語り合う。

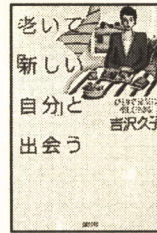
『欲望する女たち—女性誌最前線を行く』

久田恵 文藝春秋 1998年10月 1550円
女性誌は女の「欲望」を映し出す鏡であるという。絶対のダイエット、高級ブランド、不倫、テレクラ、精子バンク、パチンコ、屋カラオケ……女たちの欲望の現場を体当たり取材。欲望を煽りたてているのは女性誌だと思うが——。

『高 齢 問 題』

『こんにちは“ともだち家族”』

近山恵子 風土社 1998年11月 1575円
母が倒れた！一人で在宅介護の悪戦苦闘、そして「ともに住まう」ことへと向う。自分の経験をもとに、介護と女性の自立を支える新しい住まい方を提案する。

『老いて「新しい自分」と出会う
ひとりで元気に楽しく生きる』

吉沢久子 講談社
1998年9月 1575円

好評だった『美しく老いる』が改題、加筆された。老後の「ひとりの人生」を楽しく生きようという著者のことばには、説得力がある。利子が安くなって困っている老人たちを尻目に、消費しないから景気がよくなるなどといってほしくないと言っている。共感する人は多いだろう。

『成熟と老い』

安井信子 沢山美果子 今関敏子
世界思想社 1998年12月 2100円
個と成熟(安井信子)、セクシュアリティと成熟(沢山美果子)、成熟と老い(今関敏子)の三つのテーマを各々が論じ、テーマ毎に三人の討論が付されている。正に今、時宜にかなったテーマで、討論と合せて読めば誰もが身近な問題として捉えられるだろう。

『老後をさびしく耐えますか、

ともに楽しく生きますか。』

高橋英與 風土社 1998年11月 1575円
この15年間に12棟のシニアハウス・ライフハウスを建てた株式会社生活科学研究所の理念と、実践と未来への展望を語る。「ゆとりの住まいと暮らし」誰もが希うところ。但しこのタイトルは強迫的でいただけない。

〔男性学〕

『「男という病」の治し方（新装版）』

女性依存症を断つー自分を見つめる男たち』

ヴィルフリート・ヴィーク 梶谷雄二訳

三元社 1998年10月 2548円

前作「男という病」に続き、今度は“病”の処方箋を書いた。男たちの甘えを許さない彼は、「人を愛する」ことをとり違えている男たちに徹底した治療を行う。「人権とは男権」といえる男社会に生きる男が、「男としての自分」をみつめ、変えるということがどういうことかを説く。

『男たちの世紀末読本』

金子雅臣 パンドラ発売現代書館

1998年11月 1785円

リストラ、離婚、妻の死、女たちの結婚離れ、男たちが、牙城だと思っていた会社も、本当に安全なのか。男性受難の時代だといわれているが、性別役割分業によりかからない男性の自立的な生き方を説く。

『男たちの未来支配することなく、力強く（新装版）』

ー変革を迫られる男たち』

ヴァルター・ホルシュタイン 岩井智子訳

三元社 1998年10月 2548円

ドイツのメンズオフィスと呼ばれる機関で、語り合い、問題提起することによって男らしさ、男と仕事、真に男性的なものを考えてゆくと共に新しい方向を展望する。アンケートにみるドイツの男たちは、少しづつ変化していることが伺える。

〔その他〕

『「環境の世紀」へ』

ーいまレイチェル・カーソンに学ぶ』

レイチェル・カーソン日本協会

かもがわ出版 1998年11月 2100円

『沈黙の春』で知られるレイチェル・カーソンの日本協会が10周年を記念して編んだ。彼女の警鐘を尻目に今日の環境破壊の現実をどう変えていけるのか。アメリカでの取組みなども報告されている。

『女性のためのマンション購入術』

小島ひろ美 筑摩書房 1998年9月 1365円

賃貸と購入今ならどっちが得か？税金、ローン、諸費用は？モデルルームでチェックすべきことは？など、今まさに買いどきといわれるマンション購入の手引き。

『消費者トラブルQ&A』

伊東良徳 紀藤正樹 山口広 有斐閣 1999年1月
近ごろでは、キャッチ・セールス、マルチ商法などのほか、サラ金、資格商法、自己啓発セミナー、エステから英会話教室にいたるまで、実に様々な罠や手口がある。それらの手口を専門家が、予防法、会ってしまったときの対応策を教示。相談機関の一覧は、すぐ役に立つ情報。

『進化の傷あとー身体が語る人類の起源』

エレイン・モーガン 望月弘子訳

どうぶつ社 1999年1月 2310円

「人間の祖先は遠い昔、ある一時期を水辺や水中ですごした。そしてその水生生活こそが、人間という種をつくったのだ」というアクア説（水中類人猿説）は、近頃では注目を集めるようになった。『女の由来』以来新しく証明できる発見もあって意気軒昂だ。

『日本女性人名辞典〔普及版〕』

芳賀登 一番ヶ瀬康子 中嶋邦 祖田浩一監修

日本図書センター 1998年10月 3990円

古事記・日本書紀に出てくる女性から1997年の物故者まで7千人を収録。1993年に出たものの改訂増補版。

『もうひとつの日本地図 1999~2000』

ーいのちのネットワークー』

『自然生活』編集部 野草社 1999年1月 2520円

全国218カ所の暮らしを作り変え、新しい社会を願って活動しているグループ、ネットワーク、店などを紹介している最新の情報。松香堂書店ももちろん紹介されている。ご一覽を。

『地球温暖化は阻止できるか〈京都会議検証〉』

さがら邦夫 藤原書店 1998年12月 2940円

各分野の専門家が、地球温暖化対策の最大の柱「京都会議定書」を、最新のデータと情報を駆使して徹底的に検証、地球温暖化は本当に阻止できるのか、またどうすればいいのかを考える。全ての政治家に読ませたい。

〔資料〕

『平成10年版 現代女性の暮らしと働き方』

ー消費生活に関するパネル調査〔第5年度〕』

財団法人 家計経済研究所編

大蔵省印刷局発行 4620円

〔雑 誌〕

「現代思想Vol.27-1 特集」 ジェンダー・スタディーズ
 青土社 1300円
 若桑みどり/ジェンダー・スタディーズへの招待
 上野千鶴子+竹村和子対談 ジェンダー・トラブル

「月刊女性情報12月号」 ドメスティック・バイオレン
 ス (4) (有)バド・ウイメンズ・オフィス 3045円

「月刊女性情報1月号」
 I 女性と年金 II セクシュアル・ハラスメント
 III 性同一性障害 3045円

「アディクションと家族 Vol.15 No.3
 特集 夫・パートナーの暴力」
 家族機能研究所 ヘルスワーク 1998年9月 1680円
 東京都の「女性に対する暴力」調査結果とその分析
 (波田あい子)、座談会「明かされた実態と暴力を生む
 意識」(上野千鶴子、庄司洋子、斉藤学)「米国にお
 けるDVに関する研究レビュー」(高富克子)にご注目。

「女性学 Vol.6」
 特集 教育の場からジェンダーを問う
 日本女性学会 発売新水社 1998年11月 2500円

〔文庫になった本〕

手塚治虫の奇妙な世界 石上三登志 学陽文庫 819円
 ぼくち熱血2DK 下田治美 学陽文庫 693円
 十人十色「源氏」はおもしろい

瀬戸内寂聴 480円 小学館文庫
 愛と性の美学 松本侑子 520円 角川文庫
 愛、まさにその名のもとに

落合恵子 504円 ハルキ文庫
 愛のせいかしら 内田春菊 750円 文春文庫
 孤独を生ききる 瀬戸内寂聴 480円 光文社文庫



白蓮れんれん 林真理子 680円 中公文庫
 自分がわかる性格の本 秋山さと子 470円 双葉文庫
 梅桃が実るとき 吉行あぐり 470円 文春文庫

夢を実現する女の仕事100
 山口一美 714円 JNPC文庫
 女性の病気まるごとBook

山口一美 714円 JNPC文庫
 長生きも芸のうち 森まゆみ 840円 ちくま文庫
 ママが先生 小林カツ代 693円 学陽文庫

援助交際 黒沼克史 470円 文春文庫
 終りの美学 森瑤子 460円 角川文庫
 悪魔の死 アンネ・フォルト 訳ヤンソン柳沢由実子

400円 集英社文庫


 あなたの情報・わたしの情報
 

中山千夏著 珠玉の雑感集

『三日月の船』

一葉社刊 四六判上製272ページ 2100円

中山千夏さんは1986年に国会議員を退いた後、精力的に<モノ書き>の仕事の続け、たくさんの著作を刊行しています。また、死刑廃止運動、「古事記伝」、教育問題、スキューバダイビング・・・と、めくるめく好奇心と鋭い批評眼でさまざまなジャンルの雑誌や新聞にも執筆。

本書は、これまで発表したものの中から、「生命のまわり」「コドモのまわり」「人生のまわり」のテーマにまつわるものを選んで編んだ珠玉の雑感集です。いわば現代版<枕草子>といえるでしょう。

生命を慈しむまなざしを起点に、縦横無尽な発想と著者ならではの痛快な語り口は、読者に新鮮な感動と共感を与えることと自負しております。

(編集担当：大道万里子)

「時のかたみに—女学生の長崎原爆の記録」

中野道子編

原爆が兵器として実際に使用されてからすでに半世紀以上がたち、被爆の実態を知る人も少なくなりました。一方、国の威信をかけて核兵器の保有にこだわり、又新たに所有を望む国もあります。世界の人達は一体どの程度核兵器の恐ろしさを知っているのだろうかと思っただのがこの記録をまとめる動機でした。

1945年8月9日、長崎で原爆を体験した女学生が50年後に初めて語った体験をまとめて解説をつけています。第一部は当日から数日間の灼熱地獄。第二部はその後の放射線障害(原爆症)の恐ろしさを中心に、原爆がいかに人間を破壊しつくすかを書いています。(当時の惨状を伝える写真も多数収録)しかも現在の核兵器は当時のものの数百倍も協力、高性能なのです。ぜひ御読み下さい。そして一人でも多くの人に伝えて下さい。

A 5判・120頁・2000円(送料共)

問い合わせ先・申込先 〒151-0062

東京都渋谷区元代々木42-2 中野道子
 (直接上記までお申込み下さい)

ウイメンズブックス70号記念に寄せて

1982年ウイメンズブックストアの設立とほぼ同時に発行し始めた本誌が70号を迎えました。こんな地味なミニコミが果たして続くのかと危ぶまれながら、会員各位のお力添えのお陰で、17年間70号まで続けることが出来ました。此の度、設立当初から応援して下さいました方々から暖かいメッセージを頂戴致しました。感謝を込めて掲載させていただきますとともに、読者の皆様に心から御礼申し上げます。
「ウイメンズブックス」発行人 中西豊子

赤松 彰子 (保健婦・助産婦、里の家助産院代表)
ウイメンズブックストア17周年と通信70号おめでとうございます。

中西豊子さんの京女+なにわ女(どうしてこれがあるのか不思議、/)の魅力にひかれています。多分、あまり経営的には上等とはいえない仕事を、続けられたのは「女による、女のための」仕事だから……。団魂の世代のウーマンパワーに次の時代を託してゆきたいですね。

井上 輝子 (和光大学教員)
もう17年ですか。女性の本の専門店が、これだけ元気に続いているのは、うれしいかぎりです。「ウイメンズブックス」を見ると、その時々に関する本の情報がわかるので、それも助かります。また書評や海外だよりなども楽しみです。
どうぞこれからも、長い活動を続けて下さい。

井上摩耶子 (フェミニストカウンセラー
ウイメンズカウンセリング京都・代表)
設立17年、おめでとうございます。その頃の私は、まだフェミニストカウンセラーと名乗っていませんでした。その私の『フェミニストカウンセリングの招待』が、昨年ベスト18になったのが不思議といえば不思議。これからは私も変わるし、社会も変わるということでしょう。松香堂がもう一度京都に変わって下さると、私の事務所近くって便利なのになぁ・・・しかし、これからは変わらずフェミニスト本屋さんであってほしいと願います。

上野 千鶴子 (社会学者)
セブンティーンのお誕生日、おめでとう。33才だった私も50才になるはずだ。この不況でよくもってるね。好況でおいしい思いもしなかったのだから、不況でも落ちこまないよう祈ってます。
本ができるのは編集者と出版社、それに売ってくれる書店の人がいるおかげ。女は本にお金を使わない、というジンクスを破って、花開く年齢を迎えた

ウイメンズブックストアに、次は女盛りを迎えさせてあげたい。

遠藤 織枝 (文教大学文学部教員)
17年前の1月になるんですね。女性が女性のための本屋を開くと新聞記事になったんです。それでさっそく、こちらも女性だけで細々と開いていた研究会の研究誌『ことば』を送らせていただいた——それが松香堂とわたしの結びつきの初めでした。
京都にも、わたしたちの雑誌を読んでもくれる人がいるという大きな励みを支えに『ことば』もことし20号を迎えます。続けてきてよかったと思います。
松香堂のさらなる発展をお祈りします。

荻野 美穂 (大学教員)
女の情報発信基地・松香堂の17年、そして「ウイメンズブックス」70号おめでとう! 「ウイメンズブックス」のバックナンバーには、この17年間の日本の女たちの活動や女性学の歩みそのまま凝縮されていて、それ自体が読んで楽しくタメになる「同時代史」です。中でも「からだ・私たち自身」の翻訳出版にかかわらせてもらったことは、私の大切な財産になっています。

川喜田好恵 (ドーンセンター・コーディネーター
相談事業担当)
ウイメンズブックス70号、おめでとう。日本のフェミニズム事情を何もわからずアメリカから帰って来た私は、ウイメンズブックスの17年と共に育ってきました。「読みたい本がいつでもあるうれしさ、読むべき本に出あえる興奮、手にとって見れる安心・・・」本屋(と庭仕事)は、私にとってのセラピールームです。松香堂のないドーンセンターなんて考えられない、と思う人も多いはず。これからも、一緒に育つ仲間としてヨロシク!

木下 明美 (フリーライター)
70号ですって! 読ませていただいたっぱいの本

たちに感謝しなくっちゃ！松香堂の片隅で山積する新刊本と格闘した日々を懐かしく思い出しています。おかげで著者の方々やブックスの会員の方々ともいっぱい知り合うことができました。これはウイメンズブックストアの財産であり私の宝物です。

思えば私の自立の道はブックスとともにありましたが、今の30代の人たちはどうしているのかしらと次世代のことが気になっています。

「ウイメンズブックス」がより力にならんことを願っています。

楠瀬 佳子 (大学教員)

70号おめでとう！17年もの地道な活動の結晶、継続は力なり。蓄積された的確な情報は力なり。読書は力なり。「ウイメンズブックス」はたくさんの方を私たち女に与えてくれた。いい本といい女に出会えるチャンスと情報交換の広場を提供してくれる唯一のニュースレター。私にとってもっとも信頼できる本の道しるべ。情報と読書を武器にして、女たちがもっと生きやすくなるといいですね。ずっとつづけてください。これがなければ困りますので。

国信 潤子 (大学教員)

松香堂のこのニュースレターのお陰で日本全国の女性センター、フェミニストが確かなフェミニズムの本を手軽に探せている。私もその一人だ。特に流通に乗りにくい零細出版社の秀作はここで見つける。最近「ジェンダー・女性学関連の論文書いてキャリア・アップを」というわけで、書き手も男女若手に増えている。結構なことだと思いつつも、反面、「地位向上の道具」になる女性学ってなんだと考えた。書くだけならどんな勇ましいこともいえるし、ハイパー・リアルにも書ける。でもそれでいいのかなあ。情報は力、力は貯めてるだけでは地に足をつけるという感覚ってだんだんなくなるものだ。

関 千枝子 (女性ニュース編集者)

もう17年ですか？創業したばかりの店に通ったのがついこの間のようなのですが。しかし、よくがんばりましたね！残念ながらあの時も今もフェミニズム関係の本はあまり売れず、活字不況の今、益々状況は厳しいと思います。でも、がんばってね！やるっきゃない。ここで負けたら日本はお先まっ暗。なんとかここでくいとめているのは、女たちががんばっているからだだと思います。もうひとふんばりして、松香堂も大金持ち？になりますように！

田上 時子 (ビデオドック代表)

帰国して11年になります。ここ5年ぐらいでしよ

うか。日本人も子どもや女性の問題に目を向け出したのは。大変な時代です。そして最近の青少年の事件や混乱を見るにつけ、これから先さらに困難である時代が続いていくだろうと、感じています。

そういうなかで、私の発する情報やスキルが読者の皆様の選択肢になってくれることを祈りつつ、翻訳したり書いたりすることをこれからも続けたいと思っています。

「親をたのしむ5つのスキル」のシリーズ第2、3段が今春に出ます。ご期待下さい。

田邊 玲子 (京都大学教員)

もう17年！私はまだ大学院生だったっけ。ウイメンズブックストアという言葉と気概の新鮮さと、いかにも京都らしい古い家のほの暗い店の雰囲気とのミスマッチ(!?)が妙に印象的でした。ドイツ・フランクフルトのウイメンズブックストアが昨年潰れ、排他的フェミニズム(?)の行く末に胸が痛みましたが、それとは対照的に、オープンな交流の場としての我らが「ウイメンズブック(ストア)」はますます発展することでしょう！

鳥居千代香 (帝京大学短期大学教員)

ウイメンズブックストア設立から17年、「ウイメンズブックス」が70号となりましたことおめでとうございます。海外にあるウイメンズブックストアはなかなか経営を継続していくのが難しそうです。私たち日本の女性は幸せです。「ウイメンズブックス」はぱっと開けば読みたい本がすぐにわかるようによくまとめられているのですから。代表取締役の中西豊子さんの気さくさと関西弁もとても魅力。スタッフも親切。東京にも支店を！

林 千章 (ジャーナリスト)

フェミニズムってビョーキじゃないかしらん。「病気にもなれない人がある」とは『創造力としての病い』という本を訳した精神科医の言葉。「人は何故病気になるか？治るためや」とは、私の「主治医」の名(迷)言である。フェミニストたちが大変な日々を送りながらも(松香堂がいい例だ)根本的に健やかなのはビョーキだからなのだ！？私も読売新聞大阪本社を退社、女性学の学徒になる。お互い病膏盲、「病人力」のエンパワメントを！

深江 誠子 (大学教員)

ウイメンズブックスが、もう17年もつづいているんですね。心からおめでとうございます。私はおそらく最初からの会員だったと記憶しています。でもあまりいい客ではなかったです。時々しか注文しま

せんでしたから。でも、今年か来年からは、専任講師になれて大学から研究費が出るので、うんという客になろうと思っています。

これからも、パンチの効いた本のニュースを届けたいですね。

三木 草子 (大学教員)

70号、そしてこの道17年、おめでとう。継続は力なり、あるとないのでは大ちがい。これからも女解放に役立つ本を、そのみでいいから、紹介し続けてください。ミニコミの力は大きいです。「女から女たちへ」は16年目で終わりましたが、「ウイメンズブックス」にあやかって17年目のスタートをともに切るのもいいかな。

混迷の日本の女解放の状況を脱するために原点を見直す、そんな本を待っています。

森屋 裕子 (スペースフィフティ 代表)

ウイメンズブックス……これを見たら必ずわかるという、確かさと豊かさによせる信頼感！70号おめでとう！

善積 京子 (追手門学院大学人間学部教員)

ウイメンズブックスストアが日本のフェミニズム運動に果たした役割は大きい!!

私が監修した教材ビデオ『スウェーデンの葬送と高齢者福祉-変わる家族の絆』の発売元になっていただいている。感謝、感謝。これからも、フェミニズム活動をサポートしてってくださいね。期待しています。

(50音順)

ミニコミ情報

(松香堂で扱っているミニコミの最新情報です)

「あごろ244号-男女共同参画社会基本法答申」

女による女のBOC出版部 1998年11月 751円

「あごろ245号-フェミニズムとは限りないやさしさそして勤さ-白井博子さんを偲ぶ」

女による女のBOC出版部 1998年12月 900円

「IBU-IBU VOL.19-特集 元気にブラボー！」

トラタンネットワーク新聞社 1998年11月 315円

「IBU-IBU VOL.20-特集 『夢の21世紀』提言」

トラタンネットワーク新聞社 1999年1月 315円

「異文化の交差点イマージュVol.14-特集 態変がやってきた Yaa! Yaa! Yaa!」

1998年11月 525円

「女のためのクリニックニュースNo.163-女と健康フェスティバル全体会報告①」

ウイメンズセンター大阪 1998年11月 420円

「女のためのクリニックニュースNo.164-女のからだと性 全国一斉電話相談おわかりました。」

ウイメンズセンター大阪 1998年12月 420円

「女のためのクリニックニュースNo.165-フィリピンのウイメンズクライシスセンターに学ぶ②」

ウイメンズセンター大阪 1999年1月 420円

「月刊家族第153号-特集 海で働き、海に生きた「家船」の女たち-夫婦は対等なパートナー」

家族社 1998年11月 315円

「月刊家族第154号-特集 提訴から八年、(株)石崎本店女性差別賃金裁判勝利和解」

家族社 1998年12月 315円

「月刊家族第155号-特集 ミニコミ(女たちをつなぐ)であけましておめでとう」

家族社 1999年1月 315円

「教会と女性第十一集-今日的「マニア」の意味」

神奈川教区婦人委員会 1998年10月 525円

「くらしと教育をつなぐWe 12月号-特集 <試行錯誤>を支える」

フェミックス 1998年12月 630円

「くらしと教育をつなぐWe 1月号-特集 多様な表現をひらく」

フェミックス 1999年1月 630円

「ことば-すべての根源としてのことば暮らし(寿岳章子)」

現代日本語研究会 1998年12月 1575円

「シマネ・ジャーナルVOL.45-あいち国際女性映画祭'98」

テス企画 1998年12月 840円

「シングルス・ネットVOL.40-シングル単位論の豊富化の試み」

確信犯? シングルの会 1998年11月 263円

「性と生の教育-特集「恋愛学習」のすすめ」

あゆみ出版 1999年1月 1260円

「東京・強姦救援センターニュースNo.39-安全に話せるためには」

東京・強姦救援センター 1998年12月 105円

「TOK・TALK 1月号-懸賞 モニター情報」

情報サークル TOK・TALK 1998年12月 525円

「トランタン新聞VoL.40-特集 ブラボー! ☆子育て」

トランタンネットワーク新聞社 1998年11月 210円

「トランタン新聞VoL.41-特集 ママからのアクション」

トランタンネットワーク新聞社 1999年1月 210円

「日本婦人問題懇話会会報No.57-女性と情報の未来」

日本婦人問題懇話会 1998年11月 1050円

- 「HEART あい NEWS NO.25—ハートフルインタビュー 田中のり子さん」
BBB・OSAKA 1998年12月 315円
- 「パワーアップニュースVOL.28—どなん地球遊人 野村博文さんインタビュー「沖縄与那国島から風の便り」」
パワーアップ・プランニング 1998年12月 315円
- 「ピーマン・インフォメーション No.56—便利な一覧表付!1月からの講演会・セミナー最新情報」
ピーマン・ネットワーク事務局 1999年1月 840円
- 「Voice 第95号—特集号 国連・規約人権委員会第4回日本政府報告書審議」 住民票統柄裁判交流会
1998年11—12月合併 210円
- 「Voice 第96号—1/24 住民票統柄裁判10周年記念集会へ」 住民票統柄裁判交流会 1999年1月 210円
- 「VOICE OF WOMEN No.197—12月拡大運営会で会いましょう!」
日本女性学研究会 1998年12月 158円
- 「月刊むすぶNo.335—特集 「劣った生命」はあるのか優生思想を考える」
ロシナンテ社 1998年11月 800円
- 「月刊むすぶNo.336—特集
NPO・NGO市民運動新時代」
1998年12月 800円
- 「メンズネットワークNo.44—特集 Men's festival '98 in Tokyo」 メンズセンター 1998年11月 315円
- 「れ組通信No.139—私のカミングアウト体験談他」
れ組スタジオ・東京 1998年10月 420円
- 「れ組通信No.140—「れ組」を読んで感動」
1998年11月 420円
- 「れ組通信No.141—理念と欲望、あるいはレズビアン解放運動のこれから」 1998年12月 420円
- 「わいふ275号—特集 料理と私」
わいふ編集部 1999年1月 620円
- 「女のからだから160号—日産婦から優生思想を問うネットワークに回答がきた」
SOSHIREN・女のからだから 1998年11月 315円
- 「女のからだから161号—強制不妊手術に対する謝罪を求める会のこの頃」 1998年11月 315円
- 「女のからだから162号—98.生殖技術はどうなった他」
1999年1月 315円
- 「セックスするなら眠りたい 小貫大輔の小生とエイズのワークショップ付きピピコクラブの交換日記—性に正面から向き合い、子どもと“性”について語れる親になろうというグループの語り合いが一冊の本に」 フェミックス 1998年10月 950円
- 「平成10年度現代女性の暮らしと働き方—消費生活に関するパネル調査〔第5年度〕」
大蔵省印刷局 1998年10月 4620円

- 「経済構造・経済政策に女性がアクセスするために—女性の起業・女性企業実態調査第1回プロジェクト調査報告書」女性企業実態調査プロジェクトチーム
1998年11月 1000円
- 「男女平等の国際基準—CEDAWとEUに学ぶ国際シンポジウム報告と資料」
ワーキング・ウイメンズ・ネットワーク
1998年11月 1260円
- 「団体・スポーツのセクハラ弾劾—98/6/28第7回労働者女性解放全国集会報告集」
第7回労働者女性解放全国集会実行委員会
1998年10月 525円
- 「CRでエンパワーメント—わたしたちの経験から」
日本フェミニストカウンセリング研究連絡会自主グループCR研究会 1998年11月 1050円
- 「女性学を学ぼう ジェンダーについて考える 改訂版」 吉田あけみ著—主に大学の一般教養の「女性学」のテキストブックとして作成したもの、広く「女性学」の入門書として活用してほしい。
Click 1998年4月 1200円
- 「女のスペース・おんブックレット Violence Against Women(VAW)シリーズ②—男たちはなぜ暴力をふるうのか」
女のスペース・おん 1998年6月 630円
- 「女のスペース・おんブックレット Violence Against Women(VAW)シリーズ①—女性への暴力」
女のスペース・おん 1997年11月 630円
- 「女のスペース・おんブックレット Violence Against Women(VAW)シリーズ②—駆け込みシェルター「サポート・ガイダンス」」
女のスペース・おん 1998年6月 630円
- 「くらしと教育をつなぐWe 2・3月号—特集 買売春の是非論を超えて」
フェミックス 1999年2月 630円
- 「月刊むすぶNo.337—特集 GO/ 住民投票」
ロシナンテ社 1999年1月 800円
- 「FLCニュースレターNo.29—特集「女性ライフサイクル第8号特集：今、子どもたちの心と社会は」を読んで」
女性ライフサイクル研究所 1999年1月 315円
- 「メンズ・ネットワーク—特集 メンズスタディーズの現在」 メンズセンター 1999年1月 315円

ビデオご案内

- 「ドメスティック・バイオレンスは犯罪です」
VHSカラー20分」
制作：駆け込みシェルター運営委員会
女のスペース・おん 6300円

1998年度ウイメンズブックストアBEST20 (松香堂刊は除く)

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 1. 『発情装置』 上野千鶴子 筑摩書房 1995円 | 11. 『大阪おんな自分流』
井上理津子 ヒューマガジン 1300円 |
| 2. 『男女平等の本—ノルウェー・ジェンダーフリー教育テキスト』
ノルウェー男女平等の本を出版する会 3045円 | 12. 『ドメスティック・バイオレンス』
「夫(恋人)からの暴力」調査研究会
有斐閣 1575円 |
| 3. 『自分でできるカウンセリング』
川喜田好恵 創元社 1575円 | 13. 『「親」を楽しむ5つのスキル』
エリザベス・クレアリー
田上時子訳 築地書館 1050円 |
| 4. 『女性施設ジャーナル④』
(財)横浜市女性協会 学陽書房 1575円 | 14. 『女性学キーワード』
岩尾寿美子・加藤千恵編 有斐閣 1575円 |
| 5. 『ナショナリズムとジェンダー』
上野千鶴子 青土社 1995円 | 15. 『女性学教育/学習ハンドブック』
国立婦人教育会館編 2100円 |
| 6. 『子どもの虐待』
森田ゆり 岩波ブックレット 420円 | 16. 『実践ジェンダー・フリー教育』
小川真知子他編著 明石書店 2625円 |
| 7. 『ほーっとしようよ養生法』
田中美津 毎日新聞社 1575円 | 17. 『買春に対する男性の意識調査 報告書』
男性徒売春を考える会 1575円 |
| 8. 『エンパワメントと人権』
森田ゆり 解放出版社 1785円 | 18. 『フェミニストカウンセリングへの招待』
井上摩耶子 ユック舎 2100円 |
| 9. 『夫・恋人(パートナー)等からの暴力について
調査報告書』 フェミニストカウンセリング塚A D
研究プロジェクト 1500円 | 19. 『これでいいの? 女性と年金』
塩田咲子 かもがわ出版 600円 |
| 10. 『わたしの更年期事情』
樋口恵子編 旬報社 1680円 | 20. 『生きる勇気と癒す力』
エレン・パス、原美奈子他訳 三一書房 5775円 |

著者からの一言



菊池朋子 ((財)横浜市女性協会 フォーラムよこはま『女性施設ジャーナル』担当)
『女性施設ジャーナル』

ベスト4位とは嬉しい限り! 女性施設のあり方を考える情報交換誌として、1995年から毎年発行しています。特集テーマは1号「まだ必要か女性センター」(完売)、2号「女性施設の情報機能」、3号「市民活動支援と女性施設」とし、これまで市民グループ、研究者、職員とさまざまな方に執筆をお願いしたり、座談会に参加していただきました。5号は4月に向けて目下制作中。特集は「女性施策と女性施設」です。読んでください。

森田ゆり (センターforエンパワメント主宰、女性、子どもへの暴力防止トレーナー、カウンセラー)
『子どもの虐待』『エンパワメントと人権』



女たちが受けてきた抑圧にはどれも名前がない。私たちはそのひとつに名を付けよう。女たちのストーリーは歴史に残されない。私たちは歴史(HISTORY=彼のストーリー)を彼女のストーリー(HER STORY)で満たそう。私たちが抑圧にたちむかう武器は核兵器でも銃でもナイフでもなく、私のストーリー(MY STORY)が私とあなたのストーリー(OUR STORY)になるときに生まれる力である。

樋口恵子 (高齢社会をよくする女性たちの会・代表 東京家政大学教授)
『わたしの更年期事情』



更年期を医療の対象としてでなく、自分自身を生きる主体からの視点でとらえ、自画像をえがこうと、高齢社会をよくする女性の会が取り組んだ内容です。コレット・ダウリング、落合恵子の東西二大更年期女性の参加を得て本に厚みがつきました。この本の一部は、厚生省の委託研究で「初めて医者でない人(私、しかも女)」が主任研究者になったもの。カイロ会議の所産ですが、おかげで評価会議で徹底的に男医の権威からイビられたのも楽しい思い出です。

=書 評=

『鬼に勝つ』

金住典子著

三一書店 1998年 1890円



弁護士の金住典子さんとは、「女の人権と性」というグループで出会って以来、15年余の付き合いだが、彼女は、地位や名誉や権威といった“俗世の勲章”にはおよそ無欲で恬淡な人であり、「対等」な関係や「自己決定」を覆そうとするものに対しては皮膚感覚で素早く対応する人であり、「自分を生きる」ことにかけては公私ともに妥協をせず、清廉すぎる生き方を貫いている人、という印象が強い。彼女が10年の歳月を賭けて纏めたという本書を読んで、初めて知らされた自己形成史の過酷さ・すごさに息を飲む思いがしたが、こうした自己形成史のプロセスがあつてこそ、いまの彼女があるのだと痛く納得させられもした。

それにしても、彼女はなんと葛藤の多い人生を生きてきたことだろう。3歳のときに広島で被爆。弟と父を一瞬に亡くしたこの世の地獄に始まる人生の旅立ち。義父に殴られ蹴られながら忍従の生活に耐える母の無念さを見て育つ多感な少女期。母の不幸な人生への問いかけから、「女性解放のために弁護士になろう」と上京。大学の法学部に通うが、恋愛を知った義父に勘当され、結婚と学生生活と仕事を背負いながら司法試験に合格。国際婦人年の1975年、女性解放を旗印にした「女性協同法律事務所」を開く。娘を一人産むが、生き方のギャップが生じた夫とは離婚。そして、現在のパートナーとの必然的出会い。3人家族……と人生は転変する。「迫りくる葛藤から逃げず、正面から向かい合って徹底的に悩んだことが、その後の人生を深く突き動かす魂の宝となった」とあとがきにあるが、葛藤に徹底的に向き合うことが、自己解放に向かう道筋であること、自己肯定感、自尊心に繋がることを本書は教えてくれる。

義父との葛藤のプロセスを書き上げたとき、「鬼に勝つ」という本のタイトルを思いついたようで、もっと「売れる」タイトルを編集者に勧められても、本書を書く核心の動機をしたためた言葉だからと妥協しなかったエピソードも金住さんらしい。「鬼」とは対等なまなざしや人間関係を阻むもののことだが、自己（わたし）を生きることを損ねる価値観、非対等なまなざしに包囲されて生きる私たちであってみれば、外側（環境）にだけ「鬼」がいるわけではなく、自分の心の中にも「鬼」が巣くっていることに気づかされる。思えば、94年、アメリカのフェミニズムの旗手、グロリア・スタイネムが著した「ほんとうの自分を求めて」もテーマは自尊心、内面の世界への模索を綴ったものだった。「女の自立を阻むもの、それは私の中にあった」という文句が衝撃的だったが、彼女の本がアメリカでベストセラーになったと聞くにつけ、囚われから自己解放したい、もっと自由に生きたい、親しい人と豊かな交流をしたいと願うすべての人々にとって、励ましと勇気を与えてくれる本書が、ベストセラーにならないのはおかしい、と私は思っている。

宮 淑子 (ジャーナリスト)

上記の書評欄への投稿をお待ちしています。女性目で見直した鋭い批評や、視点を変えたユニークなものをお寄せください。1200字前後です。掲載させて頂いた方には薄々謝、進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」とコラム「わたしの推したいこの一冊」は、知って欲しい本、ご意見・情報交換等に御利用ください。400字以内でお願いします。但しこれらの欄は、薄々謝も差し上げられません。ご了承下さい。

尚、ご投稿は会員に限らせていただきます。

宛先は

〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804
松香堂書店「ウイメンズ ブックス係」
です。

次号の締切は 1999年4月20日。

たくさんのご投稿をお待ちしています。

※次号は1999年5月25日発行の予定です。

●Information from SHOKADOH

- 年度が変わりました。'99年度会費の納入をよろしくお願い致します。年会費は、個人会員2200円、団体・海外会員3000円です。
- 退会される方は必ずお申し出ください。
- 住所変更、姓名変更などもお知らせください
- 本誌は皆様の会費が支えです。お知り合いの方、図書館などに紹介頂ければ幸いです。
- 今号は70号記念の特集を致しました。2頁増頁です。
- 来号からも、ますます充実した読書案内にしていきたいと思ひます。どうぞご愛読下さい。